

基盤技術の応用により独自性のある新製品を開発した中小企業

兵庫県尼崎市のゼロ精工株式会社(従業員66名、資本金1,000万円)は、航空宇宙産業用や油・空圧機器用精密部品の切削加工のほか、これらの技術を応用した文房具等の企画・設計・製造を主事業とする中小企業である。

同社が開発したボールペン・ペンスタンド「溜息3秒」は、癒し系文具として大きな注目を集めている。「溜息3秒」という名前は、ペンをペンスタンドに差すと、ゆっくりと吸い込まれるような動きでペンが沈んでいき、その様子が、ひと息ついたときの「ふーっ」という安堵の溜息を連想させることから生まれた。ペンとペン穴の隙間が0.02ミリメートルとなるように微細加工することで、ペンをペンスタンドに差すと、ゆっくりと空気が抜け、ペン穴の空気を押すボールペンもゆっくりと中に入って行く仕組みであり、同社の得意とする油圧機器用精密部品切削加工の技術が応用されている。

同社は「溜息3秒」シリーズのほか、様々な文房具等のデスク周り製品を開発し続けている。こうした新製品開発力の源泉は、同社が技術・技能の承継に取り組んでいることに加え、精密部品の切削加工等の作業中に生まれるアイデアを大切にしていることにある。技術者が作業過程で新製品になりそうな製品の動きを発見すると、図面を作成し、デザインを施すなどして試作品に仕上げていく。同社としても、昼休みに意見交換会を行うなど、社員の提案を促す環境づくりを行っている。また、製品開発のアイデアを得るための取組として、地元の大学との連携を通じた学生のアイデアの吸収、デパート外商部との意見交換、海外を含む各種展示会見学、展示会出展等を随時行っている。

同社の岡本仁社長は、「時間が許す限り社員を自社以外の企業や大学等の人や組織に触れさせることがアイデアの創出や勉強をするチャンスとなり、経営革新や製品開発のヒントとなる。」としており、今後とも、技術革新のアイデアが次々と生まれる組織づくりを進めていく方針である。



ボールペン・ペンスタンド「溜息3秒」